



TITLE:

偉人ハーシエルの百年に際して

AUTHOR(S):

荒木, 俊馬

CITATION:

荒木, 俊馬. 偉人ハーシエルの百年に際して. 天界 1922, 2(21): 149-149

ISSUE DATE:

1922-09-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159782>

RIGHT:



偉人ハーシエルの百年に際して

古來學之は高邁なる者が研究に従事し一般民衆の興り識る可らざる者の如く考へられたり。吾天文學に於て特に然りとす。見よ。トレミーは埃及の帝王なりき。ヒパルカスは希臘の哲人なりき。コペルニクスは波蘭の僧侶にして、チホヨウは丁抹の貴族なりき。ガリレオ、ニヤトン又共に一世の天才なりしなり。されば民衆にして深遠なる學理を窮めむと願ふは、之れ神聖なるものに對する冒瀆の如くすら考へられしか。さりながら靜かなる夜の訪れに星辰は華の如く閃めくを見る時、何人か天空の憧憬れに酔はざらむ。而も一步をこの殿堂に踏み入れむとせんか、數學の難關はあまりに險阻なりき。望遠鏡を購ひ得ざる眼には深淵はあまりに幽暗なりき。かくの如くにして彼等空しき諦觀に唯丘に立ちて星の歌を調しつゝ、壯大なる宇宙の殿堂を仰ぎ見るにさどまりき。

嗚呼。星學は羅旬語と高等數學の教養ある階級の獨占に歸すべかりしか。否。

偉人井リアム・ハーシエルは正に民俗の爲めに勇猛せる第一人者なり。彼が血は其の名の如くゲルマンの血なり。流浪して英蘭に渡り住める獨逸種にはあらずや。聖堂の一隅にオルガンを奏するを職とせる貧しき俗人井リアム、作曲上の必要よりして數學に興味をおぼへし井リアム、應用數學の一例として天文の問題に遭遇せる井リアム、そは正に夜を徹して反射鏡を磨する井リアム・ハーシエルにてありしなり。

而も彼が後年の名聲赫々として不朽の功績を残せしもの、そは彼が銳利なる觀察と透徹せる理論なりき。而も彼は王立天文台の役員にてはあらずき。彼が觀測所は彼が庭園の一隅にして、彼が反射鏡は彼が自ら磨せるものなりき。而して彼が理論を組立てたる數字は實に彼が獨學自習のものなりき。

彼は徹頭徹尾民衆の爲めに獅子吼せる素人天文學者にてありし也。

彼死して茲に百年。偉大なる其靈の前に、今我等が詩を捧げむとする正に意義なきと言ふか。

大正拾壹年九月

荒木俊馬